

令和 4 年度 学校評価報告書		益田翔陽高等学校							
		A:十分満足である B:ほぼ満足できる C:改善が必要である							
重点目標	分掌	重点目標	具体的取組事項	評価指標(到達したい状況・状態)			達成値	反省及び次年度への課題等	
				評価基準	達成値				
				A	B	C			
展開 生徒一人ひとりを大切に、生徒が意欲的に取り組む学校生活の	総務部	安全教育の推進と防災意識の高揚	防災意識の高揚をめざし、火災や地震など実際に即した避難訓練を実施する。	実際の即した避難訓練を実施できたと答えた生徒・教職員の割合	90%	80%	80%未満	B 89.5%	第1回目の避難訓練の早期実施や、生徒に予告なしで訓練を実施したりと訓練方法を工夫し成果があった。また、避難経路の見直し、教室掲示などを実施し防災意識を高める取り組みを行った。
	教務部	授業力の向上と基礎学力の育成	「翔陽スタンダード」の定着をより一層固めることで、全教職員の授業改善を目指す。	生徒による「授業アンケート」の項目「授業内容について」の平均点。	3.5点以上	3.0点以上	3.0点未満	B 3.49	昨年度と比べ、学校全体の「翔陽スタンダード」を徹底させる雰囲気、下がっているかもしれない。次年度に向け改善策を検討したい。
	生徒部	生徒が翔陽高校の一員として積極的に学校行事に参加し、達成感や満足感を得る。生徒が学校行事へ一生懸命に向き合う姿勢を大切に、応援する。	生徒会・体育委員会・文化委員会と連携する。学校行事に一人一役で積極的な参加を促す。行事ごとに事後アンケートを実施し、生徒の主体的な参加とする。体育祭では体育委員長、翔陽祭では文化委員長を実行委員会のメンバーに入れるなど生徒の希望や意見を積極的に取り入れる。	生徒会・体育委員会・文化委員会と連携する。学校行事に一人一役で積極的な参加を促す。行事ごとに事後アンケートを実施し、生徒の主体的な参加とする。体育祭では体育委員長、翔陽祭では文化委員長を実行委員会のメンバーに入れるなど生徒の希望や意見を積極的に取り入れる。	90%以上	85%以上	85%未満	B89.4%	今年度、学校評価で「わたしは体育祭、翔陽祭など、本校の学校行事に満足している」と答えた生徒の割合は89.4%で達成度はBであった。昨年度より大幅に増えた。学校行事への生徒の主体的な参加を試みた結果であると思われる。ただ、現2年生は84.8%で達成度はCであり、来年度、3年生となる現2年生が充実感と満足度を上げるための仕掛けが次年度の課題である。
	保健相談部	健康教育の推進	講演会の実施や保健通信を通じて、保健情報や健康情報を発信する。	保健・教育相談に関して、実際に即した情報が発信されている。学校は保健便りなどで感染症、健康診断、SC来校案内などの保健情報を提供している」と答えた教職員の割合。	90%以上	85%以上	85%未満	A 平均93.8%	教職員95.1%、生徒92.4% 毎月1回保健だりの発行を計画したが、発行できない月があったことが反省される。また、ホームページへの記載についても徹底していきたい。 ・SCIについては、遅い時間帯で対応していただいた。
	図書研修部	図書館の利用促進	図書館利用の促進のために、利用しやすい図書館を整備し、広報活動を充実させる。	図書館利用促進のための取り組みを行っている、と答えた生徒・教職員の割合	90%	85%	85%未満	A 教100% 生87.2% 平均93.6%	今年度も引き続き、新刊図書、リクエスト図書の導入等により図書館の整備を進めてきた。また、図書館だよりや新刊案内、図書委員会の活動による広報活動も行ってきたが、より充実させていきたい。
	事務部	生徒が安全・安心で良質な環境で教育が受けられる環境整備	学校の施設設備等について、保守整備を固り、安全・安心で良質な教育環境を提供する	学校の施設設備等について、保守整備が固られ、安全・安心で良質な教育環境の中で授業が行われていると考える生徒・保護者の割合	90%以上	80%以上	80%未満	B	実習用や授業用に新たな設備が整備され、教育環境の充実が図られている。一方、水道関係は老朽化により、各種不具合が生じており、抜本的な改修が必要と認められるが、予算的に非常に厳しい状況である。
社会人として必要な資質の育成と基本的生活習慣の確立	生徒部	生徒、保護者、教職員が協力し、生徒がきわやかな挨拶ができるようになる。また、気持ちのよい身だしなみを身に付け、社会に求められる人材となる。	定期的な身だしなみ検査、あいさつ運動を実施する。全校生徒、生徒会、風紀委員会、教職員が日頃から相手の目を見てハッキリとしたさわやかな挨拶をする。身だしなみ検査では検査内容と基準を生徒保護者に周知し、理解を得ながら実施する。また、事後指導を徹底し、全教職員で日常的に指導を行う。	①学校内であいさつをしていると答えた生徒の割合②身だしなみ指導、交通安全指導などの生徒指導を適切に行っている」と答えた保護者の割合③子どもは本校の身だしなみ規定を守っている」と答えた保護者の割合④本校の身だしなみ規定を守っている」と答えた生徒の割合⑤日頃から身だしなみ指導ができていたと答えた教員の割合(①・②・③・④・⑤の平均)	95%以上	90%以上	90%未満	B (92.86%)	今年度「身だしなみ指導ができていない」と答えた教職員が大幅に増加したことは全教職員で指導する意識が高くなったことがうかがえる。一方で「わが守は身だしなみ規定を守っている」と答えた保護者が98.6%と高いが実際はスカート丈やリボンの幅など指導する場面が多い。「家庭で身だしなみ指導や交通安全指導を行っている」と答えた保護者は85.8%と昨年度より低下しており、学校での生徒の様子を各家庭に伝えることや学校・家庭・生徒が情報共有し、協力していくことが次年度の課題である。(①94.4% ②85.8% ③98.6% ④95.0% ⑤90.5%)
	寮務部	規律ある寮生活を確立する。1. 時間を守る 2. 整理・整頓をする	寮の生活時程に従って行動する中で清掃および片付けを丁寧にするように指導する。	寮生活において時間を守り、整理・整頓ができた」と答えた生徒、およびその指導ができた」と答えた教員の割合。	95%	90%	90%未満	教93.3% 生95.8%	生徒および教職員のアンケート結果では、時間と寮内のルールに関してはしっかりと守られていた。整理・整頓の点が少なくていかなかった。この点に関してしっかりと指導の必要ではなかった。
	1年学年会	基本的な生活習慣を身につけ、基礎的な人間力を育成する。1. 時間を守る 2. 場を清める 3. 礼を正す	1. 始業のチャイムは自席に着席した状態で聞かせ、提出物の期限を守らせる。 2. 教室内の整理整頓、清掃にきちんと取り組みよう指導する。 3. 返事、挨拶、言葉遣いがしっかりできるよう指導する。	「始業チャイムを自席で着席して聞くことができた」「提出物の期限を守って提出した」と答えた生徒の割合。 「教室内の整理整頓、清掃にきちんと取り組んだ」と答えた生徒及び「教室内の整理整頓、清掃にきちんと取り組んでいた」と答えた教職員の割合。 「返事、挨拶、言葉遣いがしっかりできた」と答えた生徒及び教職員の割合。	95%以上	80%以上	80%未満	B 91.8%	概ね良好ではあるが、普段の様子を見ると、チャイムが鳴る前に着席を促されてから行動する生徒もいる。「言わなくてもできる」「自分で判断できる」状態を目指して引き続き指導していく。
	2年学年会	基本的な生活習慣の育成	時間を守ること、服装髪型を守ること、挨拶を積極的にすること、掃除を一生懸命することが等できるように日々指導する。	日頃の服装・髪型の基準が守られており、挨拶・返事・言葉遣い、掃除への取り組みがしっかりとできていると答えた教職員・保護者の割合。	95%以上	80%以上	80%未満	B 教職員91% 保護者90%	制服第一ボタン外れ、だらしないリボンの留め方、教職員との会話にみられる友達言葉などが、社会生活や面接試験にふさわしいものとは到底言えない状況。全教職員で根気強く指導したい。
	3年学年会	進路目標の実現に向けた基本的な生活習慣の進化	朝礼、授業開始時間や授業関係・進路関係の提出物の期限を守るように指導する。 日常の服装・髪型の基準を守り、挨拶や言葉遣いがしっかりできるように指導する。	朝礼、授業開始時間が守られている。かつ、提出物の期限が守られていると判断した教職員の割合と、授業の開始時間が守られ、かつ提出物の期限を守っている」と答えた生徒の割合。 日常の服装・髪型の基準が守られており、挨拶・返事・言葉遣いがしっかりとできていると答えた教職員・保護者の割合。	90%以上	80%以上	80%未満	教職員 94.6%A 生徒 91.0%A 教職員 94.9%A 保護者 88.3%B	各クラス進路決定に向けて懸命に取り組んだ。提出物の大きな遅れは無く、スムーズに進路指導に取り組めた。一方で、各教科の提出物の遅れや授業時間を守れない生徒もおり、粘り強く指導していくことが必要だと感じた。 服装に関してはスカート丈を短くする生徒が見られた。指導すれば一時は直すすが、再び短くする生徒が多かった。挨拶を自分から積極的に行う生徒が大半であるが、挨拶をしないまたはできない生徒もいて、挨拶の指導の必要性を感じた。
	望ましい勤労観の育成と進路指導の充実	進路指導部	進路保障	求人情報・進学情報を迅速にクラスに伝達する。 生徒が希望する受験先を確保する。	進路情報が迅速に伝わったという教員・生徒の割合 希望する企業・学校に内定・合格することが出来たという三年生の割合	95%以上	90%未満	C	教員95.2%、生徒87.2%、保護者87.7% 教員の共通フォルダに、求人情報、指定校情報、訪問された企業や学校からの情報、および合格情報を迅速にアップすることができた。さらに周知して活用してもらったことが次の課題。評価基準を昨年度より高く設定したが、進路だよりの発行回数が増え減少したため評価が低くなった。今年度は来客や行事が多忙であったため、発行回数が減少してしまっった。 第一希望合格、内定者の割合:3年生93.4% 求人情報、指定校情報、入試方法など担任と連携して情報提供ができた。コロナはまだ取戻していなかったが、昨年度よりもさらに多い求人を見ていただき、生徒の希望に沿うよう新規の求人もいただくことができた。
電子機械科	学習意欲の向上	専門科目において基礎的な知識と技能の定着を図るとともに、資格取得に積極的に挑戦させ、多くの成果・成功を体験させ、学習意欲を向上させる。	資格検定の合格率および授業態度に関するアンケート結果	85%以上	75%以上	75%未満	C 資格:C 43.8% 授業:A 90.4%	放課後補習では部活動との兼ね合いもあるが、積極的に挑戦する生徒が増えている。受験に満足せず合格率も高まる状況を作っていく。授業態度は継続的な指導が必要である。	
電気科	進路意識の向上	将来を見据え、生徒が主体的に資格や学習に取り組むことができるように補習を実施する	資格、検定に向けて真剣に取り組んだ生徒の割合	85%以上	75%以上	74%未満	A 95.1%	資格検定に向けて真剣に取り組んでいる生徒の割合が上昇した。(92%→95.1%)全員合格できるように指導する側も工夫し、合格率を上げていきたい。合格率は減少した。(92%→85%)	
境工科学環科	基礎学力の向上	進路実現のため、資格取得をはじめとする学習指導を充実させる。	資格取得のための指導や個別指導、進路実現に向けた個別学習、定期試験前の居残り学習や補習を行ったと答えた生徒の割合。	90%以上	85%以上	85%未満	A 95.1%	多くの生徒が積極的に学習に取り組んでいると答えている。資格取得でも難関資格に挑戦し合格する生徒も複数いた。学習が進路選択や意欲向上に繋がるように指導していきたい	
総合学	専門知識や技能の向上を図り進路実現にチャレンジする生徒	生徒個々の能力、資質を十分に発揮させるとともに、これらを進路選択、人生設計に関連づけることができた態度を育成する。	資格、検定に2つ以上取得したと答えた生徒の割合。	80%以上	75%以上	75%未満	B	今年度資格を2つ以上取得した生徒は1年生:97%・2年生:78%・3年生:55%であった。3年生の取得割合を増やすことが課題である。	
育人・権特別教育支、援道教育	保健相談部	相談活動の充実	校内での情報共有に努め、必要に応じて保護者・外部機関との連携をはかり、相談体制や支援体制を充実させる。	保健・教育相談に関して、実際に即した情報が発信されている、生徒の心や体の悩みについて応じてくれている、と答えた教職員・保護者の割合。	90%以上	85%以上	85%未満	A 平均90.7%	・支援の必要な子どもの保護者は、翔陽高校での生活が心配である。その心配に答えられるような取組や評価を返すことが必要ではないか。直接の声を聞く機会があるとよい。
	図書研修部	人権・同和教育HRの推進	生徒の成長段階やクラスの色に応じた指導案作成と研究授業を推進する。	学校は人権について考える機会を提供している」と答えた生徒・教職員の割合	90%	85%	85%未満	A 教100% 生89.0% 平均94.5%	HRについて、各学年に身につけさせたい資質や知識について取り上げ、実施できた。また、校外での研修の案内や人権に関する情報の提供など、校内に周知できた。今後はさらに校内研修の充実を図っていく。
魅力化	総務部	広報活動の充実(家庭や地域への情報発信)	学校通信・学校新聞の充実、メール配信とホームページの更新を積極的に推進し、閲覧数の上昇をめざす。	メール配信、学校通信、学校新聞の発行、ホームページの更新が十分に行われ、よく閲覧したと答えた生徒・保護者の割合	90%	80%	80%未満	B 85.3%	・出前授業や地域活動は翔陽高校の魅力である。ぜひ続けてほしい。 ・学校に入りたいという中学生の率は、学校のバロメーターである。どうして翔陽を選んだのか、選ばなかったのか、ということの情報分析があるとよい。
	教務部	生徒募集の推進	中高連絡会、進路説明会、オープンスクールの充実	オープンスクール参加中学生で、入学して実際にやってみたい、関心が強くなったと答えた割合。	90%以上	80%以上	80%未満	B 89%	1回目が88%、2回目が90%で高い評価であったが、結果として、出願者が1科で定員を超えるのみで、他学科は定員を下回った。次年度は、更に改善を加えたい。
	農場部	魅力ある農業教育の実践	地域連携・貢献事業、他学科との校内連携活動を推進する	実施回数 50回以上(A) 45回以上(B)、45回未満(C)	50回以上	45回以上	45回未満	A	地域販売実習10回以上、地域連携・貢献活動等30回以上 出前授業10回 農業クラブ・翔陽ファーム5回
								・小中学生に対し、翔陽高校では学科間で連携してIoTを使った開発ができる、という発信をして、早い段階から翔陽の学びに興味・関心をもたせることも必要である。 ・学校通信等、毎年同じでパターン化している。目を引く紙面や情報提供の方法を検討するとよい。	